

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：佐藤 晴美 作成日：2026年1月21日

1. 教育の責任

「学修活動を通じて創造的な構想力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材を養成する」とした建築&芸術学部の教育目標を踏まえて自分らしい表現とは何かを考え技術を学び作品制作を通じて課題解決能力の向上に努める。

「マンガ制作入門Ⅰ」（実技・マンガ制作メジャー必修科目 春学期 2単位 12名）

「マンガ制作入門Ⅱ」（実技・マンガ制作メジャー必修科目 秋学期 2単位 12名）

「マンガ技法Ⅰ」（実技・マンガ制作メジャー必修科目 春学期 2単位 27名）

「マンガ技法Ⅱ」（実技・マンガ制作メジャー必修科目 秋学期 2単位 25名）

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（演習・マンガ制作メジャー必修科目 通年 4単位 8名）

2. 教育の理念

「豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成する」という本学の教育目的をふまえ、今や国際的に通用する「マンガ」という分野の多彩な表現力を学ぶことにより自身の世界観を広げ、社会における多様な可能性を見出すことが出来る視野の広い考えを持てるよう指導していきたい。

3. 教育の方法

○知識や技術の伝達方法

「マンガ制作入門Ⅰ・Ⅱ」は100番科目であるためマンガ制作の道具の使用方法からその技法、発想法など完全な入門科目である。全員が制作について理解し今後の指導に興味を持ち継続できるよう指導する。「マンガ技法Ⅰ・Ⅱ」は200番科目であり履修者にはまだ技術力に大きな差があり個々に学ぶべきところに違いがあるため全体の指導の上、個々に必要とする指導を行う。まずは作品制作の必然として「他者に伝える」という表現を学び理解するよう指導を行うが、作品というのは「自己の表現」であること、自己の作品を貫く姿勢、作成する目的意識を常に持てるよう自身で考え答えを出すよう心掛ける。また、様々なものを観察し理解し興味を持つことの大切さを伝える。

完成作品は秋学期に冊子の形にし完成形の発表形式で自己の作品、他者の作品を見ることで改めて次回作に反映させる。学年末にはマンガ雑誌編集者に来ていただき仕事としての考え方の作品指導を行う。

ゼミナールⅠ・Ⅱでは社会におけるマンガの使用の多様性を知るため外部からの依頼を受けクライアントの希望するものを出し、ゼミグループにより1つのものを共同制作する（社会連携での作品制作の経験）。

4. 教育の成果

○在学中にマンガ編集者が担当となり指導を受ける学生や雑誌での漫画賞での受賞、卒業後、プロとして仕事とする者など多数のマンガに関係する結果を出す。また一般職に就職し大学でマンガを学んでいたことで会社のチラシなどにマンガを描く仕事をする事が出来たなど。

○西宮市宮水ジュニア「子供マンガ教室」にて学生が講師として指導に当たる（毎年行われ10年を超えた活動）。

マンガによる表現で「芦屋市放課後児童クラブ」とあしやキッズスクエア案内パンフレット「西宮市こども未来センター」「西宮警察署」「西宮保健所」「西宮消防局」「西宮市環境局」「有限会社六甲味噌」などの様々なパンフレット・ポスターを作成。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：佐藤 晴美 作成日：2026年1月21日

5. 改善への努力と今後の目標

全体に興味を持ちものを見、理解し作成すること、作品制作の基礎が足りないと思えるため観察力や幅広い分野で学ぶ必然を伝えた。また、文章力の向上のため文字に触れる機会を増やしたい。

【添付資料】